先輩に続け

目標に向かって一緒に頑張っていける良き仲間を作ってください

三井記念病院消化器内科 後期レジデント **黒川 憲**（くろかわ けん）

私は平成26年3月に徳島大学医学部を卒業し、現在は消化器内科医として後期臨床研修を行っております。本稿では主に徳島大学在学中に行ってきたことについてご紹介いたします。

これまでの経緯

私は平成17年4月に徳島大学医学部に入学しました。入学直後に1年次の生物学の講義を担当されていた六反一仁教授の研究室に見学に行く機会があり、研究内容を紹介していただいたり実験室を案内していただいて大変好奇心が刺激されたのを覚えています。そして研究室に遊びに行き、実験の手伝いなどをさせていただけることになりました。3年次の研究室配属でも同研究室を選択し、半年間新規non-coding RNAの機能解析を行い、最後に研究発表を行いました。実験は予想通りの結果が出ないことが多いですが、予想外の結果が出た際の軌道修正や、試行錯誤の結果上手くいった時の感動、そして一つのプロジェクトが組み上がっていく過程は大変興味深く、研究室配属が終わる頃には本格的に研究をしてみたいと思うようになりました。

その後、4年次の5月から2ヶ月間テキサス大学ヒューストン校のサマーリサーチプログラムに参加しました。私たちの代が初回の派遣であったため前例がなく、申請書類の作成からVISAの取得まで出発直前まで右往左往したのも懐かしく思います。留学中はMilewicz教授の教室（内科、Medical Genetics）に配属され、解離性大動脈瘤とvasa vasorum（血管の栄養血管）の関連について基礎研究を行いました。Milewicz教授はテキサス大学のMD／PhDプログラムの出身であり、現在は本プログラムの責任者であるため、実際に活躍している多くの現役のMD／PhDプログラムの学生と交流することが出来ました。また、週末にNASAやGalvestonなどを観光したのも良い思い出となっています。

こうした経験が契機となり、4年次終了後にMD-PhDコースを選択し、平成21年4月から大学院医科学教育部へ進学しました。大学院時代は旧・ストレス制御医学分野（現・病態生理学分野）にて六反一仁教授のもと主に大腸癌と遺伝子の選択的スプライシングの関連について3年間基礎研究を行いました。真核生物ではタンパク質をコードする領域がDNA上に分断されて存在し、DNAから転写されたpre-mRNAから非コード領域（イントロン）を除去してコード領域（エクソン）を連結させる反応がスプライシングです。さらにヒトでは90％以上の遺伝子で状況に応じて連結するエクソンを選択して一つの遺伝子から複数のタンパク質を生成しており、遺伝子の多様性を生み出す重要なメカニズムです。選択的スプライシングは、組織・細胞・発生段階特異的に厳密に制御されていますが、ヒト大腸癌ではこの選択的スプライシングの調節因子の異常により、HIPK2という癌抑制遺伝子が不活化していることを発見し、学位論文といたしました。

医学博士号を取得後に医学部5年次に復学し、平成26年3月に徳島大学を卒業後は東京にある虎の門病院にて初期臨床研修を行い、現在は三井記念病院にて消化器内科の後期臨床研修医として肝胆膵や消化管の悪性腫瘍の診断と治療を中心に、炎症性腸疾患や肝炎など幅広く消化器内科疾患の診療に携わっております。

在学生へのアドバイス

何かに挑戦した結果たとえ失敗したとしても許容されるのが学生時代の特権であり、そうした時期にできるだけ多様な経験をしておくのが良いのではないでしょうか。また、大学が主催するプログラムもどんどん充実しており、そうしたプログラムを活用するのも効率が良いと思います。

そしてやはり一緒に頑張る仲間が大事だと思います。私もこれまで研究室配属、ヒューストン留学、MD-PhDコース、医師国家試験、研修医時代、そして現在と、幸いにもいずれの時期にも良き仲間に恵まれ、一緒に頑張れたからこそ乗り越えて来られたのだと思います。

これからのキャンパスライフにおいて、視点を広げてどんどん色々なことにチャレンジしてください。そして目標に向かって一緒に頑張っていける良き仲間を作ってください。